

## 熊本県の観光・レジャーに関するアンケート(2022年9月調査)

「熊本県の観光・レジャーに関するアンケート(2022年9月調査)」を実施した結果を公表いたします。(発送数:283、回収数:116、回収率:41%、回収期間:2022年9月20日～2022年9月30日)本アンケートは、県内の観光・レジャーの動向をいち早く捉えるために実施しております。

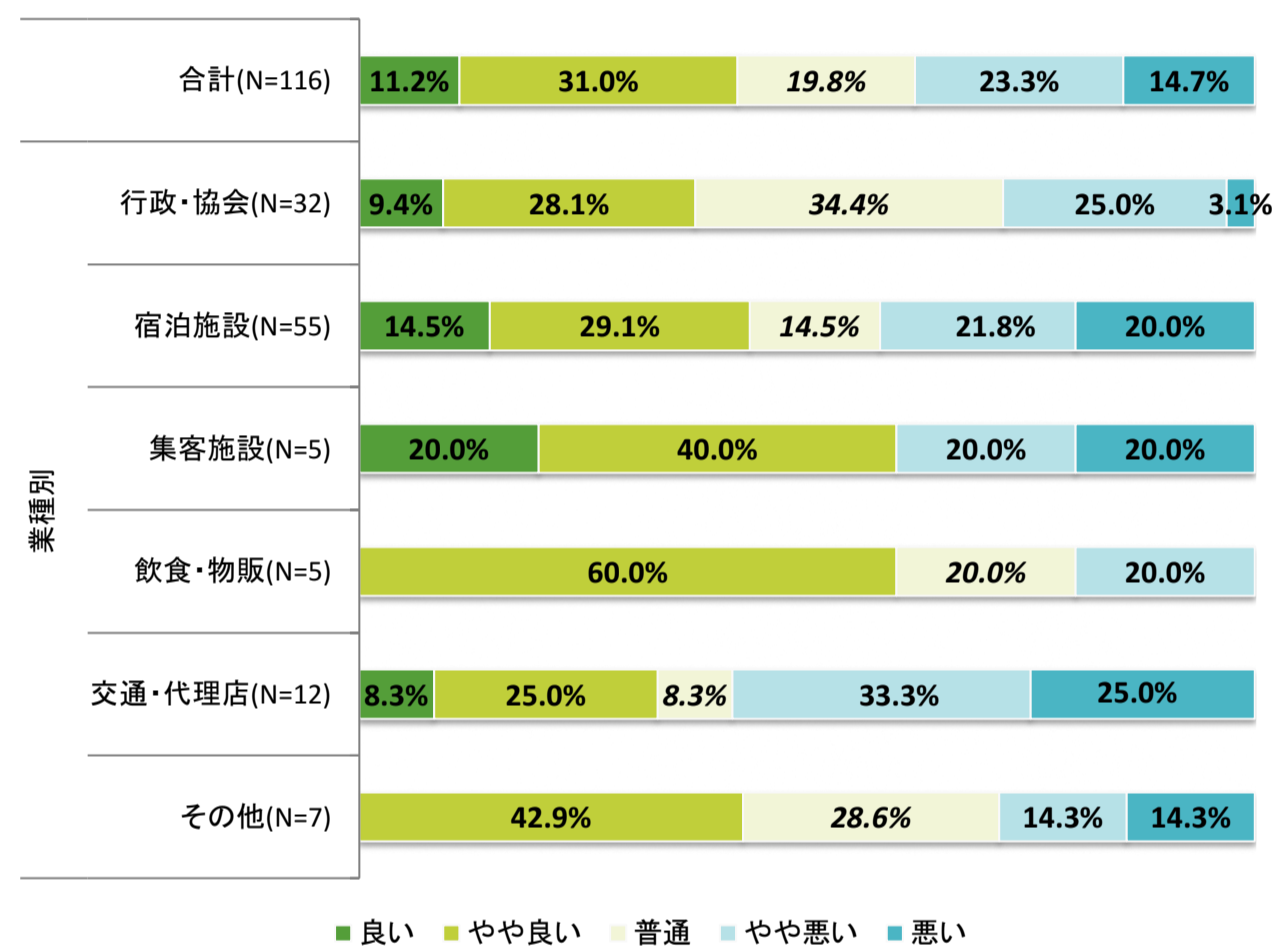
### 1. 熊本県観光DI まとめ

	現状判断DI (7月～9月)	見通しDI (10月～12月)
合計(N=116)	50.2	68.1
行政・協会(N=32)	53.9	67.2
宿泊施設(N=55)	49.1	67.7
集客施設(N=5)	55.0	55.0
飲食・物販(N=5)	60.0	80.0
交通・代理店(N=12)	39.6	72.9
その他(N=7)	50.0	67.9

7～9月の熊本県の現状判断DIは50.2となった。景況感を「良い」もしくは「やや良い」とした事業者等が前期(46.6)からさらに増加し、合計のDIが好景気の指標となる50を上回る結果となった。今期はすべての業種でDIの上昇が見られている。宿泊施設や交通・代理店は依然DIが50を下回る状況にあるが、特にこれらの業種において、DIが前期から大きく上昇している。

また、見通しDIは68.1となった。前回(71.1)をやや下回る結果となったが、引き続き高い数値を示しており、4～6月期の大きな回復から景気が安定しているとみられる。今期は「良くなる」「やや良くなる」理由として、感染状況の改善や観光支援への言及に加えて、インバウンドの再開が挙げられた。一方、「悪くなる」「やや悪くなる」理由として、先の見通せない感染状況やそれに伴う人出の回復の鈍さ、9月に直撃した台風の爪痕に関するものがみられた。

### 2. 7～9月期の動向、景況感

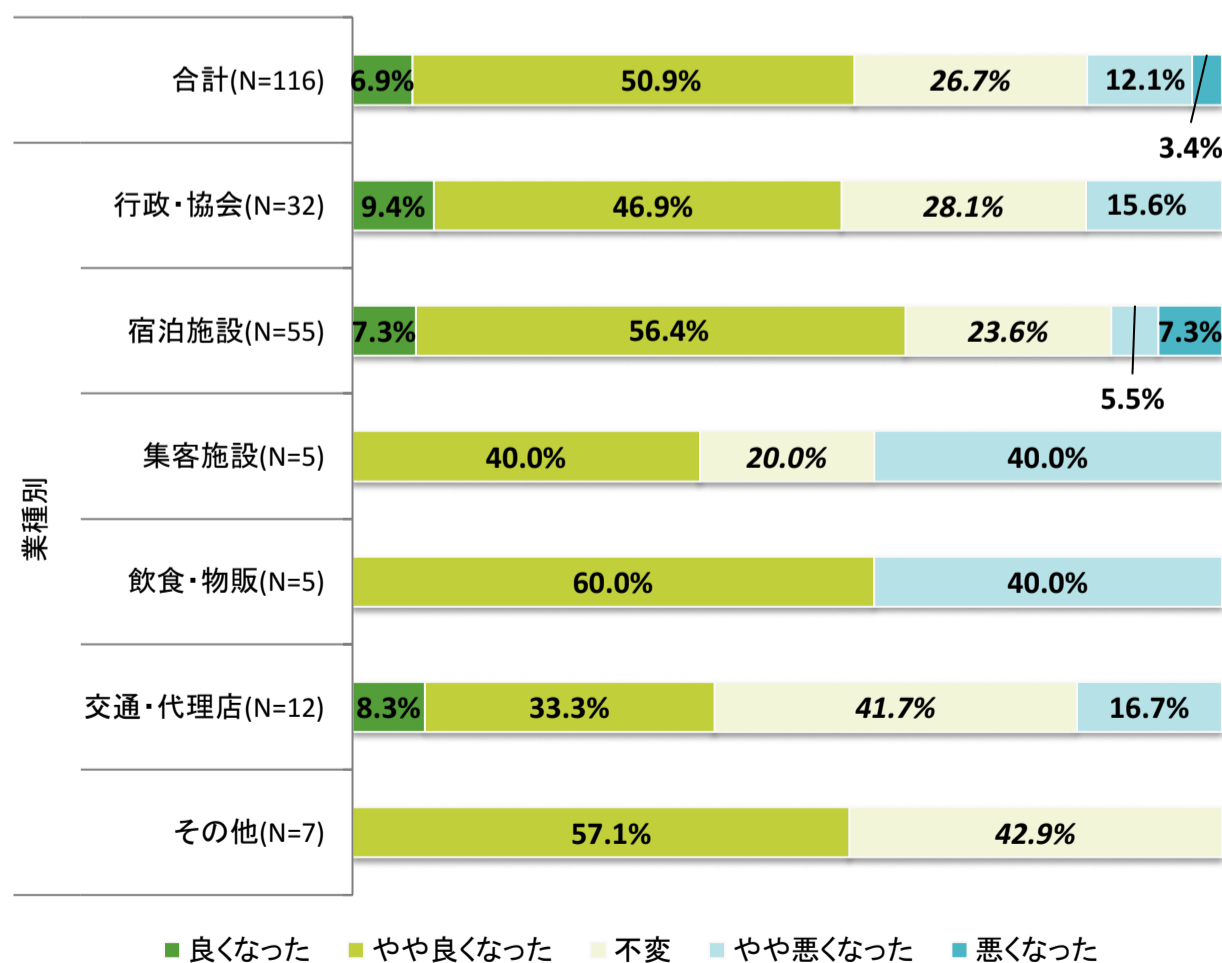


7～9月の景況感は、全体では「良い」「やや良い」の合計が42.2%、「悪い」「やや悪い」は37.9%となった。

#### 【コメントの抜粋】

- 良い  
川下りの再開により、水害後最も多くのお客様に来ていただいた。3度目のワクチンによりお客様のコロナウイルス感染症への抵抗感が薄れているように感じる。(集客施設)
- やや良い  
第7波の影響はあったが前年比で大幅に伸びた(その他業種)  
行動規制等の解除による来客数の増加(飲食・物販)
- 普通  
コロナの規制緩和で県外からの旅客も増えた為、コロナ前位には回復したが、期待ほどではなかったので普通と回答。(行政・協会)
- やや悪い  
2019年比でまだ回復していないため(宿泊施設)  
コロナ感染者増で地元利用者の出控えが影響(交通・代理店)
- 悪い  
宿泊は県民割のおかげでそこそこの予約がありますが、日帰りの慶弔ごとに関わる宴会の予約が激減しています。コロナの今後の見通しが立たず、国の支援策も長期的なもの

### 3. 4～6月期に比べた7～9月の動向、景況感

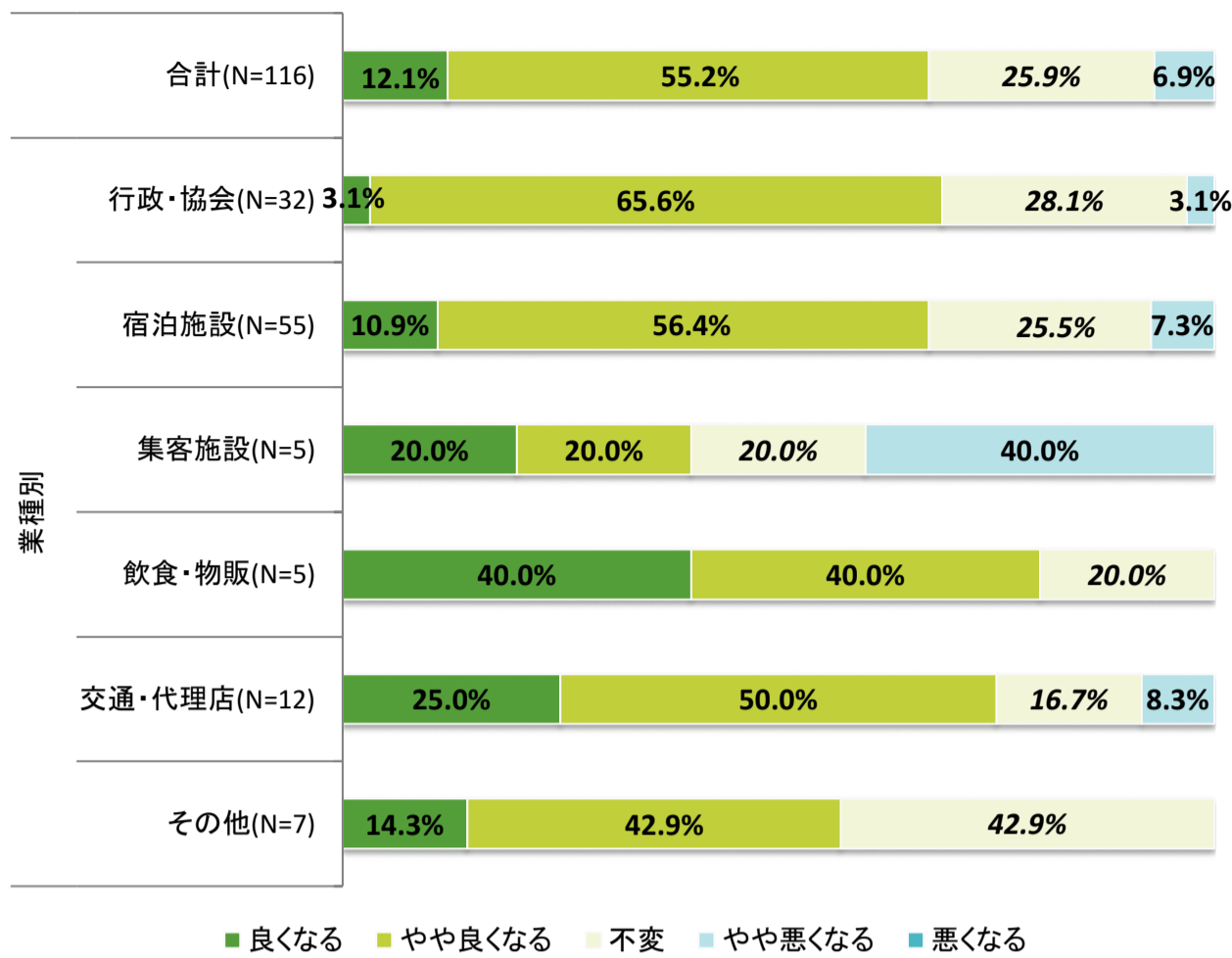


4～6月期に比べた7～9月の動向・景況感は、全体では「良くなった」と「やや良くなった」の合計が57.8%、「悪くなった」と「やや悪くなった」の合計は全体で15.5%となり、宿泊施設を除くすべての業種で「悪くなった」との回答が見られなかった。

#### 【コメントの抜粋】

- 良くなった  
行動制限のない時期や夏休みになり、利用客がかなり戻ってきている為。貸すレンタカーがない状況になったとも聞いている(行政・協会)
- やや良くなった  
客足が伸びている 台風などの要因がなければ、さらによかった。(宿泊施設)  
全体的な観光関係の需要率が上昇していると感じられている(飲食・物販)  
修学旅行や一般団体が少しずつ戻ってきているため(その他業種)
- 不変  
コロナ感染者増で観光需要の回復が遅れていると推測(交通・代理店)
- やや悪くなった  
コロナ感染拡大を受けて、観光客(特に遠方から)の動きが鈍い(集客施設)
- 悪くなった  
コロナウイルスの再拡大、並びにエネルギー高騰による物価高により娯楽離れが起こっている。(宿泊施設)

#### 4. 今後、12月までの業況の見通し



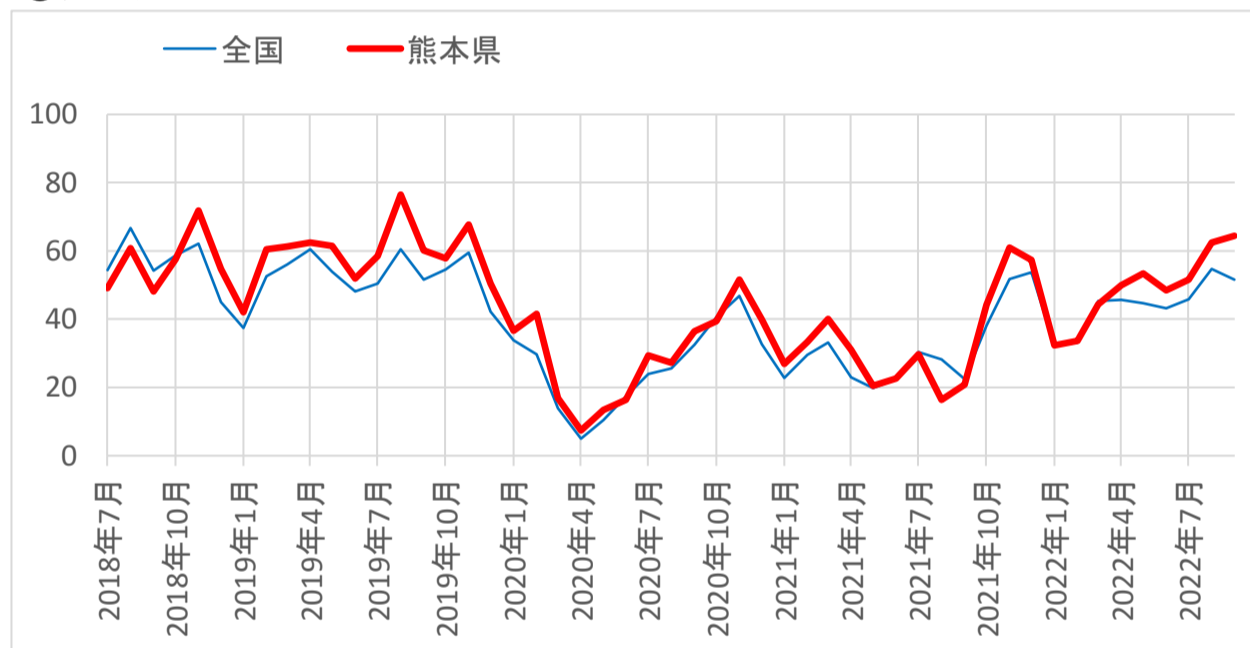
今後12月までの業況の見通しは、全体で「良くなる」と「やや良くなる」の合計は67.2%、「悪くなる」と「やや悪くなる」の合計は6.9%となっている。  
 「良くなる」理由、「悪くなる」理由ともに新型コロナウイルスの影響への言及は依然大多数を占めるが、このほかにも、「良くなる」理由として行楽シーズンへの突入、「悪くなる」理由として9月に直撃した台風の爪痕に関するものも見られた。

#### 【コメントの抜粋】

- 良くなる  
国内旅行者及び海外旅行者(インバウンド)等の増加が見込まれるから。(飲食・物販)
- やや良くなる  
宿泊のトップシーズンに入る為(宿泊施設)  
新型コロナウイルスの感染状況によるが、町内を含めて県全体で複数の集客イベントが計画されているため。(行政・協会)  
全国旅行支援が始まる(交通・代理店)
- 不変  
7月～8月がよかったのでその反動が来ている。これから色々な施策が出ると思うので期待している。(宿泊施設)  
コロナの感染状況による(その他業種)
- やや悪くなる  
台風14号の影響を受け、本来の事業ができない状態にある。緩和されるインバウンドには期待。(集客施設)

#### 5. 宿泊稼働指数の動向

##### ①月次別

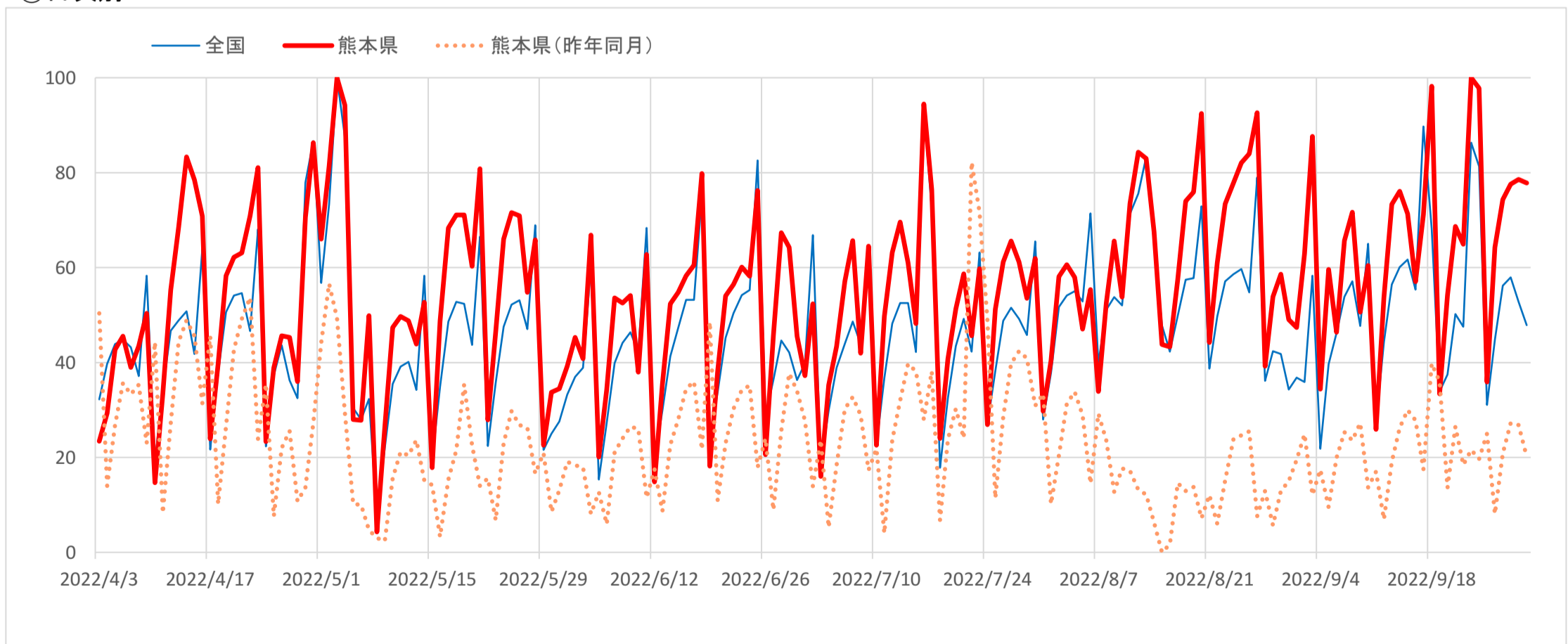


2022年7月における熊本県の宿泊稼働指数は51.6(前年差+21.9pt)、8月は62.4(同+46.1pt)、9月は64.5(同+43.6pt)となった。同期(7～9月)としては、コロナ禍による行動規制の緩和もあり、2019年の数値に迫る回復をみせている。

7月から9月にかけては、新型コロナウイルスの第7波と重なり、団体客を中心にキャンセルの増加も報告されたが、過去2年に比べ行動制限が緩和されていたこと、ワクチンの3回目接種が進んだことから人出も増え、稼働状況は前期(4～6月)からさらに改善し、コロナ禍前にも劣らない結果となった。

エリア別では人吉・球磨地域や水俣地域、天草地域で宿泊稼働指数が高くなっている。このほか、熊本市・阿蘇地域などでも前期に比べて大きな上昇がみられる。

##### ②日次別



熊本県の宿泊稼働指数を日次別(原数値)で見ると、7月以降は週の半分以上で宿泊稼働指数が50を超える週がほとんどであった。特にシルバーウィーク初日の9/23(金・秋分の日)には、5/3(火・憲法記念日)ぶりの指数100(過去2年間で最も空室数が少ない)を記録した。ほかにも8月後半や連休中の土曜日を中心に90を超える日が見られる。若い世代にもワクチンの3回目接種が進んだことや「県民割」、行動制限の緩和に加え、夏休みの時期と重なったことから、多くの世代で旅行の機運が高まったことが要因と考えられる。

また、全国と比較すると、全体的に熊本県が全国を上回る日が多いが、前期に引き続き、特に平日でその傾向が顕著に表れている。

## 用語解説

### ※DI(ディフュージョン・インデックス)

同調査におけるDIは、現在の景況感(現状判断)、現在と比べた3ヶ月後の見通し(先行き判断)に対する5段階の判断に、それぞれ点数を与え、これらの回答区分の構成比(%)を乗じたものである。(良い…+1、やや良い…+0.75、変わらない…+0.5、やや悪い…+0.25、悪い…0)。DIが50を超えた場合、景気が上向いていることを示す。

### ※宿泊稼働指数

宿泊稼働指数は日次の空室の水準を指数化したもので、(公財)九州経済調査協会が推計・公表。原数値は0から100の間の数値をとり、稼働状況が良い場合は100に、稼働状況が悪い場合は0に近づく。なお、2020年4～6月分については、緊急事態宣言による休業が多く発生していたことから、同期間に営業していた施設のみを分析対象としている。

具体的には、以下の式より算出している。

$$100 - \left( \left( \text{当日の空室数} - \text{当日を含む過去730日の最小空室数} \right) / \left( \text{当日を含む過去730日の最大空室数} - \text{当日を含む過去730日の最小空室数} \right) * 100 \right)$$

本稿では、①月次別では、日次(原数値)データを7日間周期のデータとみなして要因分解し、曜日要因を除いたものを単純平均したもの、②日次別では原数値を使用している。